

# 第10回 作曲実践演習②

## 発展的メロディ構築

今まではメロディの構築音としてなるべくScottish scaleの音を推奨してきました。特にScottish scale以外のIV(F)とVII(B)音は極力避けるべきとしてきましたが、発展的メロディ構築ではIV-VIIの使用法、さらにはスケール外の音を用いた構築法を説明します。これらScottish scale以外すべての音は「アプローチトーン」としてならば用いても構いません。アプローチトーンを効果的に用いることにより、より味わい深く魅力的なメロディを紡ぎだすことができます。しかし、これらはあくまでも発展的メロディとして用いるべきで、特にスタンダードな歌ものではScottish scaleが基本とはなりません。これらの音はインスト楽曲において特に効果を発揮するものです。そして使いどころのツボを押さえれば歌もののメロディへもちろん応用的に使うことができます。

## センタートーンとアプローチトーン

メロディは必ず「センタートーン」と「アプローチトーン」とに仕訳られます。

センタートーン・・・メロディを構成する音の中で重要な役割の音。省略出来ない音。  
 アプローチトーン・・・単独で存在せずにセンタートーンに解決すべき音。脇役の音。

### 【重要】解決(Resolve)とは

メロディのアプローチトーンがセンタートーンに上下半音、またはスケール上の全音で移動することです。この条件を満たさず動き方ならばアプローチトーンはあらゆる音でも、たとえスケール外の音でも構いません。この解決バランスをいかに取るかということが重要になります。

### ex-1 Ionian Center tone=M3rd

① 解決  
Tension resolve

② 解決

③ 解決

④ 不適格  
※スケール外の全音位置からは解決できない

- ①……………スケールのテンションから全音で解決=Tension resolve
- ②③……………半音の位置からはどんな音でも解決となる。
- ④……………全音でスケール外からは解決出来ない。

## アプローチトーン実例

11th  
アボイド

11th  
ノンスケール

9th  
テンション

m3  
(ブルーススケール)

アプローチトーン

交換可能なので9thはアプローチトーン確定

- \* このテンション音はセントートーンと見れなくもなく迷う。  
 こういう時は違う音にすり替えてみたときにメロディが破綻していなければアプローチトーン確定となる

## クロマチックトーン

メジャースケール以外の音(: Cでの黒鍵)は半音移動で必ず解決出来ることから「クロマチックトーン」と呼ばれます。これらの5つの音はそれぞれに特徴があります。

クラシック系の音

I #

マイナー導音

V #

マイナーの響きを醸し出す

III b

(V b)

発展的ブルーノート

VII b

弱いブルーノート

最強のブルーノート

ブルーノート：ブルースフィーリングを醸し出すブルースの最重要要素

クロマチックトーンはキーを基準に定義されます。明確な転調等が行われないうちはこの位置は維持されます。

## 参考例

C

Am7

FΔ7

G7<sup>sus4</sup>

G7

VII b

Ap

III b

III b

III b

## アプローチトーン実践

エリーゼのために -ベートーベン-



幻想即興曲 -ショパン-

次のメロディのアプローチトーンを改変して新たなメロディを作ってください